

私たちはすでに神の子です



兄弟姉妹の皆さん

ヨハネによる福音書とヨハネの手紙では、しばしば愛について語られています。私たちは愛について、誰でも普通に理解しています。しかし、その理解は使徒ヨハネの理解とは違う方向に行ってしまいがちです。使徒ヨハネの理解する愛とは何でしょうか。

愛とは限らない優しさです。それゆえにキリストは、ご自身を恵みとして人間に与えてくださっただけでなく、ご自分の命でさえもお与えくださいました。キリストご自身を恵みとして人間に与えてくださったのは誰かの命令ではなく、キリストご自身の崇高なご意思でした。そのようなキリストの愛は、永遠に変わることがありません。

人間にあたえられる最高の恵みは、生きる神の子そのものです。御父である神は、ご自身にかたどって人間をおつくりになるほど、人間を愛してくださいました。その愛をもって、私たちをご自分の子と呼んでくださいます。人間は、神の愛の対象となり、特別な計らいによって、人は神の子となりました。

神の子であるキリストとの兄弟のような交わりを通して、私たちは御父と親子の関係になり、神の本質を分かち合うようにと、キリストに導かれているのです。神の子である私たちの中に、神の聖性はすでにあるのです。

しかし、それは、私たちの目、想像力、知性から、まだ隠されているのが現実です。私たちの中に、聖性があるということを理解できるのは、私たちに信仰があるからです。時が満ちれば、神が私たちの心の目に、神ご自身をありのままに見る力を与えてくださいます。その時、私たちの地上での生活の幕が取り払われるのです。

それが、いつなのかはわかりません。だから私たちは、この世において、神が私たちのために用意された天の国に入ることへの希望を持ち続けるのです。

天国への希望を持つ一方で、忘れてはいけないのは、御父がイエス キリスト対して抱いておられる愛に、私たちは地上においても触れているということです。そのことが、私たちにどれほど大きな希望をもたらし、力強く支えてくれているでしょう！ つまり、この世の生活においても、平和や平安を尊び、互いに愛しあい、尊敬しあうことで神の愛を実践することができれば、この世にあって天の国を感じる事ができるのです。

愛する者たち、今すでに私たちは神の子です。事実、その通りなのです。
私たちは栄光のうちに、神のようになるために歩み始めるのです。

「神のように」という言葉から、考えていただきたいことがあります。

1. 神様が愛してくださるように、私たちも人を愛するように招かれています。
キリスト教においても、また私たちの現実の生活においても、「愛する」とは神ご自身が捧げてくださったように、私たち自身を捧げることであることに違いありません。もし、人間の愛が、神にその源を持つならば、その愛は、家庭生活、社会生活、そしてあらゆる人間関係に大きく影響を及ぼすでしょう。そうすれば、愛がどれほど広く、真実と純粋さを備えたものであるか、人は理解できるでしょう。
2. 私たちは神との一致に招かれています。神の愛を実践しようとしても、うまくいかなかったり、自分には足りないと思うことがあるでしょう。でも、私たちの努力を、神様はかならず受け取ってくださいます。だから、何度も失敗しても、そのたびに信仰に立ち返って、神様の愛に生きようとする事、信仰のうちに歩む方向から外れないようにすることが大切です。

キリストの愛を実践する、ということは、たとえば、自分を受け入れてくれない人に会った時、拒絶された時、その人のために祈り、霊的な交わりをすることです。苦しさを乗り越え、キリストがすべての人を愛したように、その人を愛するのです。

他者の歩む道を尊重しつつ、私たちはキリスト者として、無私、忍耐、赦し、無償、献身といった特質を身につけなければなりません。それによって、兄弟愛が清められ、神のご意志によって、神の到来への道が開かれるのです。

2025 年 10 月

カトリック上野毛教会 主任司祭

ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O. C. D.